

新緑知多研究研修報告書

1 研究研修項目

「東日本大震災10周年記念セミナー
その時リーダーは？災害発生初期の戦い」
主催 一般社団法人地方行政リーダーシップ研究会共催

2 研究研修場所

全国町村会館 ホールB
(東京都千代田区永田町1丁目11-35)

3 実施年月日

令和3年3月26日(金)

新緑知多 研究研修報告書

1 調査・研究実施年月日

令和3年3月26日

2 調査・研究場所

全国町村会館 ホールB（東京都千代田区永田町1丁目11-35）

3 調査・研究目的

一般社団法人地方行政リーダーシップ研究会が主催する「東日本大震災10周年記念セミナー その時リーダーは？災害発生初期の戦い」を受講し、東日本大震災における初動対応の実際と、そこから得られた教訓について学ぶことで、今後の議員活動につなげる。

4 内容

(1) 基調講演「東日本大震災対応の実際と『指揮心得』」

講師：徳山日出男（政策研究大学院大学客員教授、元国土交通省次官、震災当時の東北地方整備局長）
詳細は別添資料のとおり

- ア 東日本大震災における初動対応
- イ 国土交通省が教訓として伝える「指揮心得」
- ウ 教訓を伝承するために

(2) パネルディスカッション「災害初期におけるリーダーの心得」

コーディネーター：森 民夫（地方行政リーダーシップ研究会代表理事）
パネリスト：戸羽 太（岩手県陸前高田市市長）
菅原 茂（宮城県気仙沼市長）
須田善明（宮城県女川町長（発災当時は県議会議員））

東日本大震災被災自治体の首長と震災当時の東北地方整備局長によるパネルディスカッション

5 所感

- ・災害列島日本では、備えのサイクル（将来災害への対処）、復興のサイクル（当該災害への対処）の2つのサイクルを常に意識することが重要である。
- ・震災当時、国土交通省は沿岸自治体が大被害を受けたことに対応して「テックフォース（緊急災害対策派遣隊）」「災害対策機械」「リエゾン（災害対策現地情報連絡員）」「支援物資調達」といった地域支援を実施した。
- ・発災後最初の1週間は、防災計画に沿った復旧・復興が軌道に乗るまで、シナリオのない、最もシビアな決断を迫られる。生存ラインの72時間以内を意識することや、初動対応の重要性についての認識を新たにした。
- ・大規模災害では、事務所や職員自身の被災、道路の寸断・渋滞のために、計画どおり状況把握が進まないケースが多い。したがって、全てが整うまで待ってから報告しようとする、いつまでたっても報告が上げられない。そのため、情報が上がってこないことを貴重な情報と捉える、という考えが危機管理において重要な視点となる。
- ・東日本大震災では、過去の災害を研究し、考察し、訓練したことだけしか、実際の役には立たなかったという。しかし、災害の様相は毎回異なっている。過去の教訓に精通した上で、これを超越し、自由自在に応用してこそ、将来の大災害に対応できる。
- ・「備えていたことしか、役には立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった。」「備え、しかる後にこれを超越してほしい。」という震災当時の東北地方整備局長のメッセージを教訓に、防災・減災・災害対応に取り組まなければならないと考える。